新生大日本帝国大戦記

一条機龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新生大日本帝国大戦記

【Nコード】

N2342Z

【作者名】

一条機龍

【あらすじ】

偶発的な交通事故によって死んだはずの雑風大悟とはある歴史を辿る世界に転生してしまった。その世界は大日本帝国が勝利し、自らはあの大東亜戦争で大日本帝国を勝利へと導いた第一独立機動艦隊の司令長官となっていた。そして世界が再び混沌とする戦争になる時、第一独立機動艦隊と言う宝剣が抜かれる……。

それとこの作品は人生で初めての架空戦記です。色々指摘してくれたら嬉しいです。更新速度は3日に一話です。

第一話 プロローグ

歴史は流れの止まる事の無い一つの大河である。

その流れの中には事実と同じ歴史を歩んだ世界が存在するが、事実通りの歴史とは違う世界も大河の流れの中に存在する。

つまりこの物語の世界は大きく違っていた。そうこの第二の地球の世界がこの物語のステージである。

そしてこの第二の地球で事実とは全く異なった歩みを歩んだ日本でこの物語は始まる。

さあ、共に見届けよう。第二の世界に君臨した青年とその仲間が織りなす物語を……。

第一話 プロローグ（後書き）

初めまして一条機龍と申します。さて今回、この「小説家になるう」で初めての小説を投稿しました。多少、不慣れな所等はありませんがどうか温かい目で見守って下さい。

第二話 終わりの始まり（前書き）

本日二話目の投稿。

第二話 終わりの始まり

20XX年12月8日 日本国東京都秋葉原

日本国最大の電器街と呼ばれている秋葉原に初雪が降った。シンと降る初雪に人は色々な思いを抱いているだろう。

ここにとある思いを抱いている青年が居た。彼の名はなぎかせ だいご雑風大悟、その彼の右手には花束とケーキの入った箱を持っていた。

「ようやく買えたよ。ったく……」

雑風は対応の遅い定員に内心愚痴りながらも初雪が降る秋葉原を歩いていた。

そして雑風は郊外に続く電車を乗り継ぎ、そこからまた歩くとある場所に着いた。

そこは誰からの目にも止まらない場所でお墓が一つ、ポツンと立っていた。

そして雑風は持ってきた花束とケーキの箱を置き、墓に眠っている人に語りかけた。

「また来たよ。今度はお前が好きだったカトレアの花とショートケーキを持ってきたぞ。なあ、何が在ろうとお前の事は片時も忘れていないよみか魅華」

このお墓に眠っている人は雑風にとっては最愛にして最高のパー

トナーそして彼の許嫁だった西條魅華である。

詳しく説明すると二人で結婚式後の新婚旅行のため呉に寄っていた。そこで中国共産党党员による自爆テロに巻き込まれ、彼自身は多少のかすり傷で済んだが彼女はそういかなかった。なぜなら爆風で飛んできた破片が彼女の心臓部付近にまで突き刺さると言う重体だった。

～～回想～～

「み、魅華！？すっかりしろ！おいッ！」

薙風は自らの傷の痛みを忘れ、重体の西條を抱き起こそうとした。

「うつ………大悟………」

彼女の体は爆弾の破片で至る所から血が出ており、意識が朦朧としている。

「死ぬんじゃないぞ！もう少しで助けが来る！」

だが、西條は自分の体がもう持たないと自分自身が一番分かっていた。だから最後の力を振り絞って薙風に言った。

「大……悟………生きて……私の分まで………」

そう言つとゆっくりと瞼を閉じた。

「み、魅華？嘘だろ………何かの間違いだろ………おいッ！！返事してくれ！！うわああああっつ！！！！！！」

薙風は何よりも代え難い大切なたった一人の彼女を失った。魅華との思い出が走馬灯のように次々浮かんではすぐに消えての繰り返しだった。

くく回想終了くく

「俺はあの時誓ったんだ。魅華の様な人を誰一人として生ませない。だから俺は海上自衛隊に身を寄せた。今では艦隊司令にまで出世したんだぜ。この雄姿を魅華にも見せたかった……」

薙風は思わず涙が出ていた。あの時の状況が脳内に忠実に再現されたからである。

「じゃあな。また来るぜ」

薙風は涙を拭きながらこの場から離れ、帰宅しようとして道中を歩いていたその時だった。

キキキイイツツー……ッ！！スゴオオ……ン！！

運転を誤ったトラックが薙風を跳ね飛ばし、そのまま逃走した。辺りは血だらけの状態である。

「…魅華…もうすぐお前の所に…行ける…」

意識が消えかかっている中、最愛の女性の元に行ける、その事を考えながら薙風は静かに目を閉じた。

……だが、これは終わりでは無い。これこそが真の物語の序曲で

ある。

第二話 終わりの始まり（後書き）

ご意見・ご感想をよろしくお願いします。

第三話 別世界への転生（前書き）

ようやく完成した……自分が納得するのが出来るまで書いては消しての繰り返しでしたので……取り敢えずどうぞ。

第三話 別世界への転生

「ち……か……の……」

……何だ？声がするぞ？

雑風は何処からか分からない所から声が聞こえてくることに疑問を感じた。それに声を聞くとどうやら女性の声らしい。

雑風は重い瞼をゆっくりと上げ始めた。ボンヤリする視界の中で女性が一人居た。

「大丈夫ですか長官殿？」

女性の視線が雑風に対して向けられる。

長官？それにどういう事だ？

雑風は混乱した。その混乱に拍車をかけたのが低くも無く高くも無い天井とその女性が来ている服である。

確かあの時俺は外に居たはず。それにその服は？

彼は見覚えがあった。かつて世界に誇れる海軍力を有した日本海軍の海軍服にそっくりだからである。

埒が明かないと彼は重い体を立たせようとした。

「長官殿！？」

女性は雑風が立つのに気付いたのか雑風の肩に自分の肩を掛けてくれたおかげで何とか立てた。

そして周囲を見回し、次に自分の身体を目の前に有った鏡で見た。少しだが自分の背が伸びている感じがした。

「どうしたのですか長官？」

女性は不審な行動をする自分に聞いてきた。

何と言ったらいいのだろうか？取り敢えず何か言い訳をしなくては。

「済まないが君は誰なのだ？」

女性は衝撃を受けたかのように少しよろめくと言った。

「何を言っていますか？私はこの機動航空戦艦『越後』の艦長、芹沢綾香海軍大佐ですよ。どうしたのですか長官？一体？」

機動航空戦艦？何を言っている？航空戦艦どころか戦艦すら存在しないのに。どういう事だ？

また混乱したがとにかく即席で考えた言い訳をするしかなかった。

「……分からないんだ。それに自分の名前は覚えているのだが官職などが分からないのだ。それに一体自分の身に何があったのだ？済まないが教えてくれないか？」

これを聞いた芹沢は答えた。

「あなたはこの第一独立機動艦隊を率いている司令長官であるのです。そして長官、覚えていないのですか？長官は勤務中に急に倒れてしまったのです。それでこの長官室で休ませていたのです」

第一独立機動艦隊？そんな組織は海上自衛隊には存在しない……いや待て。もしこの世界は自分が居た世界とは違う世界だったら？それなら話の辻褄が合うのだが……もしかしたら自分は全く別の世界ワールドに転生してしまったかもしれない。

こんな風に考えていた薙風に芹沢は言った。

「取り敢えず長官殿。今はゆっくり休んでいて下さい。何よりも健康が一番ですから」

そう言うと芹沢は敬礼して部屋から出て行った。

そこから薙風は何が起こったか分からなかった。意識が戻ったら全く異なった世界に飛ばされた揚句に自分は何事にも代えがたいような重要な役職に就いている。

取り敢えず自分の部屋（長官室）に置いてあった一冊の本を取って見た。ちなみにタイトルは『大東亜戦争から現代まで』である。

薙風は最初からページに喰らいつき、次々とページを捲っていった。そしてあつという間に読み終えたが、薙風にとっては衝撃が大きかった。

この本に書かれていった事を重要な点だけ抜き取るところなる。

事実とは全く違う道を日本は進んでおりそれどころかナチスが政権を取れなかったため共和制を敷いているドイツ連邦共和国、日英同盟が継続しているイギリス、共同の道を進もうと同盟を組んだフランス、そしてアメリカを脅威と考えている中華民国との間で結ばれた軍事同盟俗に言う五カ国軍事同盟が締結されていた。

そして1941年12月8日、日本海軍第一機動艦隊、第二機動艦隊がハワイ真珠湾に航空攻撃、その後息をもつかせぬ早さで三個師団を上陸させ、そして占領したのだ。その際に脱出しようとしたペンジルバニア型二隻を特殊潜水艇の魚雷攻撃によって湾の出口で撃沈、それが原因で脱出できず戦艦八隻（コロラド型三隻、ニューメキシコ型三隻、テネシー型二隻）、事実とは違い巡洋戦艦として竣工しているレキシントン型巡洋戦艦六隻、重巡二隻（ポートルランド型）、軽巡二隻（セントルイス型）、駆逐艦一六隻を捕獲することに成功した。

ちなみにウィリアム・F・ハルゼー提督率いる機動艦隊は第二機動艦隊の航空攻撃で空母を除く全艦艇が撃沈され、さらに第三水雷戦隊が機動艦隊を包囲したためさすがのハルゼー提督も降伏せざるを得なかった。

同時に英仏独三カ国連合艦隊がカリブ海へ奇襲攻撃を仕掛けた為、バハマ諸島の各基地は殲滅され、さらに米加国境からランカスター、モスキート、He277が工業地帯への戦略爆撃を仕掛けたため各地の工場は軒並みやられた。

さらに日英陸軍はアメリカ極東拠点フィリピンへの上陸作戦を敢行。日本海軍第二艦隊とイギリス極東艦隊が上陸前に艦砲射撃を行い、その際にアメリカ極東艦隊の艦艇を航空攻撃で八割撃沈、残りの二割は日本海軍の誇る第二水雷戦隊一撃必殺の酸素魚雷で沈めた。

フィリピンをめぐる戦いは圧倒的に日英軍優勢だった。アメリカ陸軍のM3スチュアート軽戦車やM3リー・グラント中戦車は本来ならまだ存在しないはずのイギリス陸軍のコメット巡航戦車、チャーチル歩兵戦車、日本陸軍の事実で言うなら五式中戦車並の性能を誇る百式中戦車、88mm戦車砲を搭載した百式重戦車によって蹴散らかされ、アメリカ軍の兵士は恐れ戦いた。そのため僅か一ヶ月でフィリピンは陥落した。事実では出来なかったマッカーサー將軍を捕虜にしたためである。

ちなみにハワイ占領と同時にミッドウェー諸島、マリアナ諸島、アリューシャン諸島、ジョンストン島を占領。これにより太平洋からアメリカが有する軍事基地はほぼ消滅したも同じだった。

大西洋では英仏独三カ国連合艦隊とアメリカ大西洋艦隊の間で激闘が繰り広げられた。結果はイギリス海軍の戦艦ロイヤル・オーク、バラム、巡洋戦艦レナウン、空母イーグル撃沈の代わりにアメリカ海軍の最新鋭戦艦ノースカロライナ、ワシントン、空母レンジャー、ラングレー、ブロックアイランドを撃沈する等、大接戦だった。

1942年6月、真珠湾で捕獲した艦艇を大改装、さらに改大和型戦艦として越後型超弩級戦艦四隻を中心とする機動艦隊：それが第一独立機動艦隊である。この艦隊は連合艦隊では無く軍令部直属の機動艦隊であり、つまり連合艦隊が独立機動艦隊の艦艇の引き抜きは不可能でさらに独立機動艦隊はある程度独立した行動を取ることが許されているため、大きなフリーハンドである。

艦隊編成（主力艦艇のみ）は以下の通り。

艦隊旗艦：『越後』えいご

- 高速戦艦：『備前』^{びぜん}
『備中』^{びちゆう}
『備後』^{びご}
『出羽』^{でわ}
『羽前』^{はつぜん}
『羽後』^{はつご}
『安芸』^{あき}
『出雲』^{いづも}
『石見』^{いづみ}
『筑前』^{ちくぜん}
『筑後』^{ちくご}
『九重』^{くじゆう}
『普賢』^{ふけん}
『蔵王』^{ざうおう}
『磐梯』^{いわて}
『羊蹄』^{やうてい}
『乗鞍』^{のりあそ}
『雲早』^{うんそう}
航空母艦：『鋭龍』^{えいりゆう}
『剣龍』^{けんりゆう}
『盾龍』^{たてりゆう}
『防龍』^{ぼうりゆう}
『伊吹』^{いぶき}
『鞍馬』^{あま}
『九頭竜』^{くつりゆう}
『神野瀬』^{かみのせ}

と言つ感じになっている。

第一独立機動艦隊の初陣はフェニックス諸島占領作戦及び中型空

母一隻、護衛空母四隻からなる小規模機動艦隊の撃滅である。

同年7月、ハワイ真珠湾より第一独立機動艦隊が出港し、最初に航空攻撃でフェニックス諸島に点在する航空基地や基地を攻撃、これで敵機動艦隊をおびき出させようとした。作戦は見事に成功し、敵空母からせつせと航空機が出撃してゆく中、別ルートから接近した航空隊の奇襲によって次々と航空機に誘爆、そして僅か20分で五隻の空母を撃沈した。残った艦艇は一部を除いて航空攻撃で空母共々撃沈され、残った艦艇は命からがらでアメリカの領海へと逃げて行った。この後、フェニックス諸島は余裕のあるイギリス軍が占領した。

同じ頃、欧州では英仏独陸軍とソ連軍が東欧を巡って激しい陸上戦を繰り広げていた。ソ連軍自慢のT-34、KV-1、KV-2に対してドイツ陸軍のパンター中戦車、ティーガー？重戦車、イギリス陸軍のコメット巡航戦車、チャーチル歩兵戦車が特にワルシャワで激戦を繰り広げていた。結果は地上戦に加えて空中戦で制した英仏独三カ国連合軍が勝利、東欧諸国を赤軍の手から守った。

それどころか逆にポーランド方面、イラク方面から合計80万の兵力、戦車3500輜、航空機6500機、艦艇110隻がソ連に対して総反撃に出た。ワルシャワで大損害を受けたソ連はこの攻撃を防ぎきれずモスクワまで後600キロと言う所まで追い込まれた。

ソ連軍は最後の望みとして満州への総攻撃を仕掛けた。だが、これですら日本陸軍及び中国陸軍、満州陸軍の万全の体制での反撃によって侵攻した極東陸軍50万のうち僅か二週間の反撃で五分の一に当たる戦死者2万5000名、死傷者6万名、捕虜2万5000名、対して日中満三カ国連合軍は戦死者8700名、死傷者1万1000名、捕虜無しと言うソ連の歴史的な大敗北に終わった。

1943年4月、日本海軍はアメリカ建国史上初の本土空襲のため第一独立機動艦隊を中心に第一機動艦隊、第二機動艦隊がロサンゼルス、サンフランシスコ、サンディエゴ、シアトルへの航空攻撃を敢行した。その際に空襲予定の場所を中心に強力な電波で大胆にも空襲宣言を行った。空襲の結果、それぞれに点在する航空基地や軍港を軒並み破壊した。

同年7月、サンディエゴ沖に再建した機動艦隊が集結、そしてハワイへと進路を取った。戦力としてはサウスダゴタ型戦艦四隻、アイオワ型戦艦四隻、エセックス型空母八隻、インディペンデンス型空母四隻、ニュー・オーリンズ型重巡四隻、アトランタ型軽巡六隻、フレッチャー型駆逐艦二十四隻と大規模になっていた。代償として大西洋艦隊の戦力は大幅に減少していた。

この機動艦隊出港は哨戒中の潜水艦によってハワイの機動艦隊に到達され、停泊していた第一独立機動艦隊、第一機動艦隊、第二機動艦隊が出港し、ハワイ内の航空基地からは爆雷装の零式陸攻（事実の一式陸攻）四三型、最新の三型陸攻一型、天山一型、彗星三二型、直掩の零戦五四型、最新鋭の烈風二一型、紫電改二二型、陣風二二型が出撃した。

対するアメリカ機動艦隊は十二隻の空母から最新のF6Fヘルキヤット、SB2Cヘルダイバー、TBFアベンジャーが出撃していた。

まず零戦五四型、烈風二一型とF6Fとの空中戦ではF6Fの重装な機体を両機に搭載されている25mm機関砲によって次々と撃ち落としていったが、逆に脅威的な旋回性の代わりに装甲を多少削ったため12.7mm機関銃の一斉射で一瞬にして火を噴くと激戦

だった。

次に攻撃隊だが、最初に攻撃を仕掛けたのは後手に回ったはずの日本軍だった。だが、アメリカ軍機動艦隊はアトランタ型防空巡洋艦六隻が空母を中心に陣取り圧倒的な対空砲火を浴びせた。そのため何とかアトランタ型四隻、インディペンデンス型二隻、フレッチャー型五隻を撃沈、エセックス型六隻を飛行甲板を損傷させた代わりに出撃した機数の一割に及ぶ四十九機が撃ち落とされた。

次にアメリカの攻撃隊だが、これに関してはほとんど制空戦闘機隊の攻撃で撃ち落とされ、残った機体も各艦艇が持てる全ての対空火器を撃ち上げた為、全く照準を付けずに爆弾や魚雷を投下していたので艦隊は無傷だった。

航空攻撃で空母に少なくない損傷を加えられたアメリカ海軍は戦艦群を艦隊から切り離して、夜戦を仕掛けようと艦隊から離れた。

そして日にちが代わる時、日本軍の哨戒の隙をついてアメリカ軍の戦艦が夜襲を仕掛けてきた。しかも運の悪い事に米戦艦が向かって行くのは第二機動艦隊で、手持ちの戦艦は対空戦闘に特化改装した金剛型防空戦艦四隻のみであるためかなり不利な状況であるが、幸いなのは改装によって金剛型の速度が33ノットに向上した事と第三水雷戦隊が付いていた事である。

結果はサウスダゴタ型四隻を撃沈したものの第三水雷戦隊の重巡青葉、衣笠、駆逐艦三隻が沈み、金剛型全艦が三か月のドック入りと言っほどの大損害を被った。

残ったアイオワ型四隻は再び日本軍の哨戒の隙をついて機動艦隊と合流しようとしたが、その機動艦隊は戦艦群が離れた隙に第一独

立機動艦隊の高速戦艦群によって全艦艇が拿捕されると言う事態が起こつたのだ。皮肉にも自分達を拿捕しにきたのはかつての友軍の艦艇である事で、この状況を知つたアイオワ型四隻は最初こそ撤退しようと考えていたが、自分達の戦艦よりもはるかに巨大な戦艦がやって来た事とその艦砲射撃によって降伏せざるを得なかつた。

日本側は第二次ハワイ沖海戦と大々的に発表、逆にアメリカでは今まで負け続きでしかも今回の海戦では自分達の犠牲は大規模なものに対し、日本側に与えた損害は重巡二隻、駆逐艦三隻撃沈、戦艦四隻中破、航空機四十九機のみである。

そのためより一層アメリカ国民の間で反戦デモや大統領辞職を訴えるデモの規模が大きくなり、それに拍車をかけたのがルーズベルト政権が社会主義国家であるはずのソ連に対して武器を輸出する事が発覚すると本来味方であるはずの民主党からも議会で盛んに辞職を訴え、そしてついにルーズベルト大統領は脳梗塞で倒れ、そのまゝ息を引き取ってしまった。

そのため副大統領であるハリー・S・トルーマンが大統領に就任するとすぐに五カ国軍事同盟と講和条約を呼びかけ、軍事同盟側はこれを承諾、そして1943年11月1日スイスの首都ジュネーヴにおいてジュネーヴ講和条約が締結。これによりアメリカを含め六カ国軍事同盟となつてソ連とイタリアに対し宣戦布告したのだった。

早速、アメリカ軍は欧州に軍を派遣し英仏独陸軍と共にイタリアへと進行した。対するイタリア軍は事実よりはマシでソ連より無償で輸入した燃料によってイタリア海軍自慢のヴィットリオ・ヴェネト型戦艦やアクイラ型空母が地中海で大暴れしていた。

それに対して欧州へと派遣させた第一独立機動艦隊がジブラルタ

ル方面から地中海へと進行し、イギリス、フランス地中海艦隊と共に地中海のイタリア軍勢力を駆逐すべく、シチリア島、クレタ島攻略作戦を発動させた。

攻略にあたって障害となるイタリア艦隊に対しては徹底的な航空攻撃を敢行、もちろんイタリア空軍も反撃しようとしたが最新の烈風三二型、紫電改三二型、陣風三二型によって難なく排除した後、攻撃隊によって少ない海軍戦力がさらに少なくなった。

そして一か八か出てきたイタリア艦隊に対して越後型の必殺の20インチ主砲が炸裂、最終的には一隻も残らず徹底的に艦隊を撃滅した。

その結果、両島の進行を阻むイタリア軍勢力は最早存在せず、さらに両島の守備隊の兵士の士気の低下も合いあまって、さほどの抵抗も無く占領できた。

1944年2月、たび重なる爆撃に戦況の悪化によって現政権への不満がついに爆発した。そしてベニト・ムッソリーニをクーデターで逮捕、幽閉させ、代わりに政権を握ったのは非戦派のピエトロ・バドリオだった。

彼は取り敢えず英仏独の三カ国に対して停戦を提案し、三カ国もこれを承諾。かれに日中米の代表を呼んでの講和会議が開かれた。そして暫定的にパリ講和条約が締結。条約締結の後イタリアは中立宣言を宣言した。

これによって戦争の構想が六カ国軍事同盟対ソ連…いや世界対ソ連と言う構想となった。

米英仏独陸軍は圧倒的な物量を武器にソ連の首都モスクワへの侵攻を、同時に極東方面から日中満陸軍がバイカル湖から東へと侵攻を開始した。

対するソ連軍は根こそぎ集めた兵士や戦車、航空機で対抗したが錬度が未熟なうえに物量戦では圧倒的にソ連に分が悪かった。さらにソ連重爆撃機隊もドイツのメッサーシュミットMe262やイギリスのミーティア、アメリカのP-80そして日本軍の火龍一型や橘花等のジェット機部隊によって護衛機共々殲滅させた。

無駄な犠牲を増やし、それによってスターリンの粛清が重なり只でさえ少ない優秀な士官や将校がいなくなり、これが負のスパイラルを招いていると言っても過言では無い。そのため無断で脱走する兵士や時には中隊規模で脱走する部隊も現れ始めた程だった。最早ソ連は風前のともしびびである。

1944年7月、米英仏独四カ国連合軍は遂にモスクワ、サンクトペテルブルク、スターリングラードを占領。その際、モスクワでは脱出しようとしていたスターリンは幕僚共々爆撃で死亡してしまつた。これにより反スターリン派がクーデターを起こし、抗戦派を徹底的に逮捕、投獄させた。

そして1944年8月15日、大日本帝国首都東京において六カ国軍事同盟とソ連新政権との間で講和条約、東京講和条約が締結。こうして世界を巻き込んだ第二次世界大戦は幕を閉じたのであった。

第三話 別世界への転生（後書き）

ご意見・ご感想をよろしくお願いします。

第四話 状況確認と新鋭機（前書き）

今回の話は多少短いところ都合主義が入っています。

第四話 状況確認と新鋭機

2025年12月8日 第一独立機動艦隊総旗艦越後 長官室

「（これ程、日本は発展しているのか……）」

長官室に置いてあった本を全て読み終えた雑風は、この世界の日本がこれほど発展している事に驚きを隠せなかった。

ちなみに今現在、日本海軍が保有している戦艦については性能を簡単に含めて以下の通りである。

大和型機動戦艦四隻：『大和』『武蔵』『信濃』『三河』

全長 365m

全幅 50m

基準排水量 13万6500トン

常備排水量 16万4000トン

満載排水量 20万6500トン

最大速度 35ノット

航続距離 原子力機関のため無限

武装 50口径51cm3連装電磁投射砲4基12門

60口径20.3cm3連装速射副砲2基6門

65口径127mm単装速射砲16基16門

MK41VLS200セル（二番主砲と一番副砲の間、三番主砲と二番副砲に100セルずつ）

25連装近接防空ミサイルランチャー4基

4連装トマホーク巡航ミサイル発射筒4基

4連装ハーブーン艦対艦ミサイル発射筒4基

8連装シーパロー艦対空ミサイル発射筒8基

8連装アスロツク艦対潜ミサイル発射筒2基
高性能30mm多砲身全自動対空機関砲16基
航空機 15式垂直離着陸機12機

10式対潜回転翼機 5機
最大搭載機数量 20機

越後型機動航空戦艦：『越後』 『備前』 『備中』 『備後』

全長 465m

全幅 50m（船体のみ）

100m（飛行甲板の端から端まで）

基準排水量 13万4500トン

常備排水量 18万8200トン

満載排水量 30万9300トン

最大速度 40ノット

航続距離 原子力機関のため無限

武装 50口径51cm3連装電磁投射砲3基9門（前部集中型、

配置は高雄型と一緒）

65口径127mm単装速射砲16基16門

MK41VLS200セル

25連装近接防空ミサイルランチャー4基

4連装トマホーク巡航ミサイル発射筒4基

4連装ハーブーン艦対艦ミサイル発射筒8基

8連装シーパロー艦対空ミサイル発射筒12基

8連装アスロツク艦対潜ミサイル発射筒2基

高性能30mm多砲身全自動対空機関砲22基

航空機 10式制空戦闘機 25機

15式戦闘攻撃機 20機

15式戦闘爆撃機 20機

15式垂直離着陸機 20機

10式艦上偵察機 5機
10式対潜回転翼機 5機
最大搭載機数量 95機

相模型機動戦艦：『相模』 『伊豆』 『遠江』 『安房』 『上総』 『下総』

全長 355m

全幅 45m

基準排水量 8万7500トン

常備排水量 11万8800トン

満載排水量 15万2400トン

最大速度 35ノット

航続距離 原子力機関のため無限

武装 50口径46cm3連装電磁投射砲5基15門（前部3基、後部2基）

65口径127mm単装速射砲16基16門

MK41VLS200セル

25連装近接防空ミサイルランチャー4基

4連装トマホーク巡航ミサイル発射筒4基

4連装ハーブーン艦隊艦ミサイル発射筒4基

8連装シースパロー艦対空ミサイル発射筒8基

8連装アスロツク艦対潜ミサイル発射筒2基

高性能30mm多砲身全自動対空機関砲12基

航空機 15式垂直離着陸機12機

10式対潜回転翼機 5機

最大搭載機数量 20機

以上の十二隻が今現在日本が保有している現役の戦艦である。こ

の他にも練習艦として長門、陸奥、伊予、淡路、阿波、讃岐（伊予、淡路、阿波、讃岐は長門型戦艦三丁六番艦として存在している。これもパラレルワールドなので悪しからず）、金剛型防空戦艦八隻が存在している。

ちなみに相模型機動戦艦は元アメリカ海軍のアイオワ型戦艦六隻（アイオワ、ニュージャージー、ミズーリ、ウィスコンシン、イリノイ、ケンタッキー）である。イリノイ、ケンタッキーについて講和条約の際に賠償艦として頂いた経歴を持っている。その他に賠償艦と言えばエセックス型空母四隻、ミッドウェイ型装甲空母三隻、改アトランタ型防空巡洋艦であるヴィンセンス型防空巡洋艦八隻が戦時賠償として貰う事になったが、代わりにハワイ、ミッドウェー諸島、ジョンストン島、アリューシャン諸島をアメリカに返還した。

航空母艦においては原子力空母二十隻、通常機関空母三十二隻を保有しており、特に原子力空母に至ってはアメリカ海軍が保有しているニミッツ型原子力空母の全てを超える性能を誇っており、まさに大日本帝国の繁栄を象徴している。

「さて、っと……」

ひとまずこの世界の状況についてなんとなく読めた雑風は取り敢えず艦内を見まわり始めた。

「（……何だ？やけに女性ばかりじゃないか。それに一人も男子が居ないじゃないか）」

艦内ですれ違った人をよくよく考えてみると女性ばかりで男子と誰一人としてすれ違わなかった。

そうこうしているうちに防空指揮所に到着した。そこには一人の女性が居た。肩の階級章から少佐である事が分かる。

「こ、これは長官殿ツ!？」

薙風に気付いた瞬間、慌てながらも敬礼をした。薙風も敬礼を返した。

「体調は大丈夫なのですか長官殿？」

「ああ、何とかな……」

薙風はこの後の話をどう進めたら分からなかった。なぜなら彼女はと言うつ役職についているのか。それ以上に敵しいのが彼女の名前である。そんな時、彼の頭を何かがよぎった。『大日本帝国海軍航空参謀、白石若葉少佐』どんな理論かは知らないがとにかくそれが彼女の名だと悟った。

そんな時、飛行訓練なのか後方の飛行甲板には数多くの戦闘機が駐機していた。その中には薙風が見たことに有る戦闘機ばかりだった。

「あれは…F - 22にF - 35じゃないのか」

そんな薙風に白石航空参謀は言った。

「長官、確かに米軍の機体にそっくりですが全く違います」

そう言うとそれぞれの機体を指差しながら説明した。

「あの戦闘機は10式制空戦闘機『雷燕』、隣の機体は15式垂直離着陸機『隼燕』、左後ろの機体は15式戦闘攻撃機『翠燕』、右後ろの機体は15式戦闘爆撃機『劍燕』です。いずれの機体もアメリカ軍の機体よりも性能は上回っています」

キィィー！バシユウツ！

一機の雷燕がカタパルトによって大空へと飛んで行った。ちなみに雷燕は米軍のF-22以上のステルス性と打撃力に優れた戦闘機である。

「…素晴らしい。（前の世界とは大違いだ）」

この世界の人達が雑風の居た世界を見たらどう言うだろう。最初に出てくる言葉はきっと「情けない」だろう。在日米軍に頼りつきりで、本来自分たちの国を守るはずの自衛隊を様々な形で否定する等とにかくこの世界の人達からすれば歪んでいるだろう。

「はい。これも我が大日本帝国の技術の象徴とも言えます」

白石少佐は胸を張って自信満々に答えた。その自信に答えるかのように雷燕は太陽の光を浴び、白銀の機体を輝かせた。

第四話 状況確認と新鋭機（後書き）

ご意見・ご感想をよろしくお願いします。

第五話 戦備会議

2025年12月27日 第一独立機動艦隊総旗艦越後 長官室

薙風は仕事の合間を縫ってこの第一独立機動艦隊に関して調べた所、数多くの事が分かって来た。特に艦隊編成については世界最大規模である事、世界で唯一の戦艦保有艦隊である事、そして何よりも女性兵士の割合が全体の六割だと言うことである。

では、第一独立機動艦隊の艦隊編成は以下の通り。

総旗艦 : 『越後』
機動航空戦艦 : 『備前』
 『備中』
 『備後』
機動巡洋戦艦 : 『九重』
 『普賢』
 『蔵王』
 『磐梯』
 『羊蹄』
 『乗鞍』
 『雲早』
 『紫龍』
通常空母 : 『朱龍』
 『彩龍』
 『剛龍』
 『帝龍』
 『電龍』
 『雷龍』

原子力空母

:

- 『桜龍』 おうりゅう
- 『奮龍』 ふんりゅう
- 『風龍』 ふうりゅう
- 『蓮龍』 れんりゅう
- 『凍龍』 とうりゅう
- 『紅龍』 こうりゅう
- 『白龍』 はくりゅう
- 『鎧龍』 がいりゅう
- 『鎧龍』 こくりゅう
- 『殻龍』 かりゅう
- 『隼龍』 しゅんりゅう
- 『輝龍』 きりゅう
- 『神龍』 しんりゅう

イージス巡洋艦:

『伊吹』

- 『鞍馬』 けんま
- 『吉野』 ぎよの
- 『吉井』 ぎい
- 『養老』 ちやうらう
- 『狩野』 りうじや
- 『笛吹』 さくらメント
- 『隅田』 ぐまた
- 『九頭竜』 くだりゅう

ミサイル駆逐艦:

- 『神野瀬』 じんよのせ
- 『一ツ瀬』 ひとつのせ
- 『奥入瀬』 おくいりのせ
- 『撫子』 なでしこ
- 『桔梗』 ききょう
- 『木蓮』 もくれん
- 『鈴蘭』 すずらん
- 『蒲公英』 たんぽぽ

『月見草』
『みずほしゅう』
『水芭蕉』
『さつんか』
『山茶花』
『じゅうがく』
『十月桜』
『くもまくら』
『雲間草』
『ふゆぼたん』
『冬牡丹』
『ふゆざん』
『冬珊瑚』

これがかつて世界最大最強と謳われた第一独立機動艦隊の全貌である。いずれの艦艇にもイージスシステム、フェースト・アーレイ式レーダー完備、何よりも機動戦艦、機動巡洋戦艦、一部の空母には原子力機関を搭載する等まさにあらゆる面で世界最強である。

ちなみに紫龍型空母は元エセックス型空母、隼龍型原子力空母は元ミッドウェイ型装甲空母である。

「ふむ。なるほど。もしかしたら俺、この世界に来たのが正解だったかな」

機密性バツチリのパソコンで艦隊編成などを調べていた雑風はこの世界の日本の情勢等から推測して呟いた。

そして長官室の窓から外の様子を見る。外には数多くの艦艇が停泊していたが目には止まったのは九重型機動巡洋戦艦である。データベースによると四度に渡る改装によって攻撃特化型の特徴を持っており加えて、特に目を引くのが第二次改装によってもう1基増え5基15門に増えた50口径41cm3連装電磁投射砲で主砲配置は前部3基、後部2基の配置である。

その他にもエンクロースト・バウを採用し、アングルト・デッキ

を備えている空母に、越後の姉妹艦にして数多くの激戦を潜り抜けた備前、備中、備後、その他諸々の艦艇がいずれもマストに誇らしく旭日旗を掲げていた。

トントン、ドアがノックされる。

「どうぞ入ってきてくれ」

「失礼します」

入って来たのは越後艦長の芹沢海軍大佐だった。

「長官。会議の準備が出来ました」

「分かった。今すぐ行く」

越後に有る第一会議室には各戦隊司令官と航空隊司令が集まっていた。そして雑風は中央の席に座り、芹沢大佐はその隣に座った。

今回の会議の内容はまず艦隊整備、航空兵力、さらに第一独立機動艦隊専用の特殊陸戦隊の陸上兵力、等々が話し合われた。

「…それで今の所は各戦隊共兵力は充実しているのか」

各戦隊司令官からの話を纏めるとまず航空戦隊からは最新の機体から燃料、弾薬、ミサイル等が優先的に配備されており、さらにパイロットの錬度も入りたての新米兵を除きほとんどのパイロットは世界水準を上回っている状態である。

特殊陸戦隊についてだが、まずは特殊陸戦隊について説明しなければならぬ。特殊陸戦隊の発足は第二次世界大戦前まで遡る。

1939年、中華民国では沈静化していたはずの毛沢東率いる共産党がソ連の支援を受け、各地の国民党軍と戦闘を始めたのだ。それに五カ国軍事同盟軍は即座に軍を派遣、特に日本軍に至っては二個師団三万名及び一個戦車師団、虎の子の機動艦隊を派遣した。

共産党軍のゲリラ戦に加え命知らずの肉弾戦は日露戦争、第一次世界大戦の教訓を生かしてははずの日本陸軍を苦しめ、さらに事実よりも格段に早く登場したT-34/75、KV-1によって長砲身57mm戦車砲を持った九七式中戦車改（チ八改）は次々と撃ち抜かれてしまった。そのためまだ試作車段階の百式中戦車（厳密に言えばこの段階で試製百式中戦車）を投入、ドイツ、イギリスと共同で開発した長砲身の75mm戦車砲はT-34/75の正面装甲を貫通させ、KV-1についても自走砲、榴弾砲の砲撃で何とか撃破したが、それさえも陸軍上層部の慰めにもならなかった。事実よりも遙かにマシだがまだ戦車についての認識が薄い日本陸軍上層部は長砲身の57mm戦車砲で充分だと考えており、後継車輛の開発にも大きく影響したほどだった。

そして中国共産党＋ソ連軍義勇軍と五カ国軍事同盟軍との紛争は共産党党首毛沢東が幕僚共々爆撃によって死亡したのをきっかけに共産党軍は各地で敗退を重ね、ついには中国内での共産党勢力は完全に駆逐された。

その後、日本陸軍は国共紛争の教訓を元に強力な戦車砲と堅固な防御力を兼ね備えた戦車、高速で重装甲な爆撃機、新型小銃等の開発に力を注ぎ、さらに日本海軍内でも国共紛争の教訓を生かし、アメリカの海兵隊を元に独立した陸戦隊の創設した。これが特殊陸戦

隊の始まりである。

特殊陸戦隊の任務は主に敵地への強襲上陸や強硬、威力偵察等であり、武器も陸軍と相互性を持たせるため同じのを保有している。

第二次世界大戦中ではこれまでの教訓が生かされ、正面装甲85mm、ラインメタル社の傑作砲88mm戦車砲を搭載した二式中戦車、正面装甲115mm、二式105mm戦車砲を搭載した二式重戦車が対米戦、対伊戦、対ソ戦を通して日本軍の勝利の立役者になり、特殊陸戦隊も大戦中においてはハワイへの強襲上陸作戦やマルタ島上陸作戦、サンクトペテルブルク占領作戦等の作戦を遂行、成功させ各国からは「アメリカの海兵隊に勝るとも劣らない部隊」や「大胆不敵で勇氣ある部隊」と推奨の声が上がる等、一役有名になった……話を戻します。

「長官、一ついいですか？」

手を上げて発言を求めたのは特殊陸戦隊総司令官、鹿島千鶴^{かしま ちいづみ}陸軍中将（女性）である。

「何だ？」

「申し上げます。今現在特殊陸戦隊が保有している10式重戦車についてですが、実は10式の120mm戦車砲では米軍のM2ワシントン、ドイツ軍のレオパルド？等の最新戦車には勝てません」

M2ワシントンとはM1エイブラムスの、レオパルド？はレオパルド？の後継車輛として存在しており、それぞれの戦車には55口径140mm滑空砲を搭載している。そのため未だ44口径120

m m滑空砲を有する10式では劣ると感じたのだ。

「分かっている。だが、何度政府に伝えても後継車輛の開発に非積極的なのか回答はいつも同じだ」

現在の政府は本来なら今年完成するはずだった10式の後継車輛の開発を色々と言って延期ばかりしていた。ちなみに計画ではラインメタル社の55口径140mm滑空砲を備え、装甲は複合装甲、時速は70キロとM2、レオパルド?等の5世代主力戦車と同等の戦車になるはずだった。

「…分かりました」

「本当にすまない」

その後の会議は一部を除いて話は順調に進んだ。その一部とはさつき話した後継車輛と航空隊の配備がこの頃遅れている事だ。この原因が分かるのは後々のことである。

第五話 戦備会議（後書き）

ご意見・ご感想をよろしくお願いします。

第六話 新鋭機と艦魂（前書き）

今回の話は多少の無理がある設定です。

第六話 新鋭機と艦魂

2026年1月15日

総旗艦越後 後方飛行甲板

全長250メートル、最大装甲120mmを誇る飛行甲板では雑風、芹沢、白石と三人の目の前にはとある戦闘機が一機鎮座していた。

「これが新型の次世代型戦闘機なのか？」

雑風にはその機体が元の世界の心神にそっくりだと言う事が分かっていった。ちなみに彼の居た世界では心神はようやく完成し、F-1Xによつて決まったF-35ライトニング？と共に生産され再生した松島基地を中心にF-4ファントム？と交代で配備されている。

「はい。そうです」

白石航空参謀は自信満々に答えた。

「それにこの戦闘機は世界初のとあるシステムを採用しています」

「それはどう言うシステムなのか？」

「それをこれから説明します」

そう言うと白石は整備長に合図を送った。その合図を切っ掛けに心神の後ろのエレベーターから何かが上がって来た。特徴としては

心神の全長の半分もあるつかと言う長さに、何よりも巨大なウエポンベイがその存在感をアピールしている。

「これは？」

「これは心神専用の強化パーツ、その名もIWSPI001通称アインストライカーです」

IWSPとはintegrated weapons strike park。つまり統合兵装ストライカーパックであり、この001は主に一对多数を想定し、ウエポンベイには大型の対空ミサイルや対艦ミサイルを搭載でき、その搭載量はアインストライカー単体で何と7トンと言う搭載量を誇る。当然だがストライカーの後方はエンジンが付いており自身が飛行できるようになる事が可能で、さらには換装した時にエンジンと直結し尚且つストライカー自体にもエンジンを有しているため、実質エンジン4基分の推力を生み出せるためほとんど問題無い。

ちなみにアインとは何故かドイツ語で意味は1である。

「マジかよ。聞いたことも無いぞ」

薙風は思わずそう言ってしまった。何せ機体の後部に換装パーツを付ければその分機体が重くなり旋回性も悪化する。

「ですがアインストライカーを換装するとAAM-15ならウエポンベイに12発、ハードポイントに8発の合計20発搭載できます。それに心神には最新の自動ロックオンシステムを採用しています。なので運用上は問題無いと思います」

「まさにデストロイヤー（破壊者）ですね」

白石の説明に芹沢はアインストライカーを見ながら相槌を打った。

「実はこれだけでは無いのです」

そう言うとな度はいかにも高速性能を意識したストライカーパーツとアインストライカー以上に火力を重視したストライカーパーツがエレベーターより上がって来た。

「まず左のストライカーパーツは高火力に特化したツヴァイストライカーで、右のストライカーパーツは高速性と格闘戦に特化したドリストライカーです。ツヴァイストライカーには30mm6砲身ガトリング機関砲を2門、ハードポイント12個を備え、ドリストライカーには同じく30mm6砲身ガトリング機関砲2門、ハードポイント10個、そしてアイン、ツヴァイよりも大型高出力エンジンを2基備えています」

ガトリング機関砲の配置場所は機体下辺にガンポッドのように配置され、ツヴァイストライカーはアインストライカーよりも大型で搭載量は最大10トンと言う重爆並の搭載量を誇っているがその分3つのストライカーパーツの中では最も扱いづらい。ドリストライカーは搭載量を削ってその分大型高出力のターボジェットエンジン2基、長距離飛行のための巨大な燃料タンク、サポート用のデコイ、フレア、チャフを備えており3つのストライカーパーツの中では最も軽量である。

「凄い……んっ?」

雑風はこの世界の技術水準の高さを改めて知った。そしてチラッと後ろを見た時、後部艦橋の見張り台で女性二人がこちらを見てい

た。それだけならまだいいのだがその女性はよくよく見ると体が透けて見えるのだ。そして薙風がこちらを見ているのが分かると何と光と共に消えてしまった。

「どうしましたか長官？」

「……いや、何でも無い。(一体何なんだっただの)」

その後、白石航空参謀からストライカーパーツについての説明を聞き二、三度言葉を交わして飛行甲板を後にした。

「やっぱり凄いなこの世界は」

艦内を歩いていた薙風は独り言のように呟いた。するとどこからか話し声が聞こえた。

「……か……ね……」

どうやら予備会議室から聞こえてくるようだ。よく聞くと女性の声だった。女性が六割を占める第一独立機動艦隊なら何も問題無かったがさっきの事を思い出すと覚悟を決めてドアを開けた。

「……えっ？」

薙風は驚いた。先程見た女性に加えて三人の女性が居た。それだけならまだいいが、やはり先程の二人と同様に残りの三人も透けていた。

「あの……あなた達は一体？」

薙風が聞くと彼女達は互いに顔を見合わせ、そしてこう言った。

「…一ついいですか？あなたは艦魂の存在を信じますか？」

「艦…魂…？ま、まあそれは…まさか！？」

薙風は一つの可能性に辿り着いた。

「ええ。私はこの機動航空戦艦越後の艦魂越後です」

黒のショートカットヘアの女性が挨拶してきた。

「私は越後型二番艦の備前です。よろしくお願いします」

今度は栗色の肩まで伸びている髪の女性が敬礼しながら挨拶した。

「ボクは三番艦備中だよ。よろしくね」

備前と同じ栗色のショートヘアの少女が挨拶した。

「……四番艦備後」

黒のショートヘアの根暗なメガネっ娘が簡易的な挨拶をした。

「私は九重型機動巡洋戦艦一番艦の九重です。よろしく」

腰まで伸びている見事な金髪ヘアの女性が挨拶した。

「へえ〜。まさか本当に艦魂なんていたんだな〜」

薙風は彼女達を見ながらそう言った。

「フフツ。初めてなんですよ長官が」

「何が初めてなの？」

「艦魂が見える人がですよ。少なくとも私が生まれてから一人もいませんでしたから」

「そう…なのか…」

「んんっ。でもこれでまた楽しみが増えました」

よほどうれしかったのだらう越後の表情が柔らかくなった。これが艦魂との出会いだった。

第六話 新鋭機と艦魂（後書き）

ご意見・ご感想をよろしくお願いします。

第七話 登場人物及び艦艇紹介

ここで今まで登場した人物や艦艇、航空機などを説明します。まずは登場人物から。

なまかせ だいし
雑風大悟（男性）

身長 182cm

体重 55kg

年齢 28歳（2026年現在）

階級 海軍大将

所属 第一独立機動艦隊総司令長官

説明

この物語の主人公にして第二次世界大戦で日本軍を勝利へと導いた第一独立機動艦隊の総司令長官に転生した逆行者である。

性格は冷静沉着で戦況を一瞬にして把握でき且つ的確な指揮を行える事から海自時代では『ゴットコマンダー（指揮の神様）』と呼ばれていた。

ちなみに右腰には名刀『飛龍斬撃剣』、左腰には同じく名刀『陣風連撃剣』を下げている。本来なら帯刀は違反だが彼のみ許されているため刀を下げている。

容姿は黒のショートヘアで瞳は紫、イメージは機動戦士ガンダム00の刹那・F・セイエイ。

せしざわ あやか
芹沢綾香（女性）

身長 172cm

体重 44kg

年齢 27歳（2026年現在）

階級 海軍大佐
所属 機動航空戦艦「越後」艦長
説明

第一独立機動艦隊総旗艦「越後」の艦長を務めている。海軍兵学校を首位で卒業したエリート中のエリートであるため僅か27歳で大佐に昇進できた程の才能を誇る。

性格は真面目で誠実まさに委員長系だが、それ故他人と衝突することもしばしば。

容姿は黒の腰まで伸びているロングヘアで瞳は黒、そして同姓すら釘づけにするGカップ級の巨乳の持ち主。イメージは恋姫無双の関羽。

白石若葉（女性）

身長 163cm

体重 42kg

年齢 25歳（2026年）

階級 海軍少佐

所属 「越後」航空参謀

説明

「越後」の航空参謀で元々は航空科に所属していたが色々な事情が重なり将校科に転属されたがパイロットとしての能力は高い事から予備のパイロットにもなっている。

容姿は赤茶で団子頭にしていてツルペタの貧乳。イメージは恋姫無双の呂蒙。

続いて艦艇の紹介です。

九重^{くじゅう}型機動巡洋戦艦

全長 325 m

全幅 40 m

基準排水量 7万2300トン

常備排水量 10万6300トン

満載排水量 12万8200トン

最大速度 45ノット

航続距離 原子力機関のため無限

武装 50口径41cm3連装電磁投射砲5基15門

65口径127mm単装速射砲16基16門

MK41VLS200セル

25連装近接防空ミサイルランチャー4基

4連装トマホーク巡航ミサイル発射筒4基

4連装ハーブーン艦対艦ミサイル発射筒4基

8連装シースパロー艦対空ミサイル発射筒12基

8連装アスロツク艦対潜ミサイル発射筒2基

高性能30mm多砲身全自動対空機関砲22基

航空機 15式垂直離着陸機12機

10式対潜回転翼機 5機

最大搭載機数量 20機

姉妹艦 二番艦『普賢』、三番艦『蔵王』、四番艦『磐梯』、五番艦『羊蹄』、六番艦『乗鞍』、七番艦『雲早』

説明

元アメリカ海軍レキシントン型巡洋戦艦を真珠湾占領作戦で捕獲し、四か月の改装を得て第一独立機動艦隊に編入された。

最初は防空巡洋戦艦として活躍、終戦後は対空噴進弾などのミサイル兵器を搭載したミサイル巡洋戦艦として運用、1980年代の中曽根軍拡において原子力機関を搭載し機動巡洋戦艦として今に至る。

紫龍型空母しりゅう

全長 335 m

全幅 45 m

基準排水量 5万5500トン

常備排水量 7万6200トン

満載排水量 9万4500トン

最大速度 45ノット

航続距離 18ノットで2万海里

武装 65口径127mm単装速射砲8基8門

25連装近接防空ミサイルランチャー4基

8連装シースパロー艦対空ミサイル発射筒4基

高性能30mm多砲身全自動対空機関砲12基

航空機 10式制空戦闘機 45機

15式戦闘攻撃機 25機

15式戦闘爆撃機 25機

10式艦上偵察機 5機

10式対潜回転翼機 5機

最大搭載機数量 120機

カタパルト 4基

エレベーター 3基(22m×22m四方)

サイドエレベーター 2基(22m×22m四方)

姉妹艦 二番艦『朱龍』、三番艦『彩龍』、四番艦『剛龍』、五番

艦『帝龍』、六番艦『電龍』、七番艦『雷龍』、八番艦『桜龍』、

九番艦『奮龍』、十番艦『風龍』、十一番艦『蓮龍』、十二番艦『

凍龍』

説明

元アメリカ海軍のエセックス型空母で一々八番艦は第二次ハワイ
沖海戦で捕獲、残りの四隻は賠償艦として頂いた経歴を持つ。

第二次世界大戦では第一独立機動艦隊の航空戦力の一翼を担い、

終戦後にはエンクロード・バウ化、飛行甲板の装甲の増加、アン
グルト・デッキを備えるなど様々な機能を詰め込んだ実験艦として
運用され特に艦橋に至ってはたび重なる改装によって海軍随一の高
さを有している。

紅龍型原子力空母

全長 365m

全幅 55m

基準排水量 7万7500トン

常備排水量 10万3300トン

満載排水量 13万3400トン

最大速度 45ノット

航続距離 原子力機関のため無限

武装 65口径127mm単装速射砲10基10門

25連装近接防空ミサイルランチャー4基

8連装シースパロー艦対空ミサイル発射筒4基

高性能30mm多砲身全自動対空機関砲12基

航空機 10式制空戦闘機 45機

15式戦闘攻撃機 30機

15式戦闘爆撃機 25機

10式艦上偵察機 5機

10式対潜回転翼機 5機

最大搭載機数量 130機

カタパルト 4基

エレベーター 3基(22m×22m四方)

サイドエレベーター 2基(22m×22m四方)

姉妹艦 二番艦『白龍』、三番艦『鎧龍』、四番艦『穀龍』

説明

日本海軍初の原子力空母にして竣工当時世界最大最強と謳われ、

初陣はベトナム戦争である。

ちなみに「鎧龍」「穀龍」は途中で設計を変更したため書類上では三ノ四番艦となっているが、一部では改紅龍型と言われている。変更点は電子機器から始まり格納庫及び飛行甲板の装甲増加などである。

隼龍型原子力空母

全長 335m

全幅 50m

基準排水量 8万4900トン

常備排水量 9万9200トン

満載排水量 11万3300トン

最大速度 45ノット

航続距離 原子力機関のため無限

武装 65口径127mm単装速射砲8基8門

25連装近接防空ミサイルランチャー4基

8連装シースパロー艦対空ミサイル発射筒4基

高性能30mm多砲身全自動対空機関砲12基

航空機 10式制空戦闘機 35機

15式戦闘攻撃機 30機

15式戦闘爆撃機 30機

10式艦上偵察機 5機

10式対潜回転翼機 5機

最大搭載機数量 120機

姉妹艦 二番艦『輝龍』、三番艦『神龍』

説明

元アメリカ海軍のミッドウェイ型装甲空母で賠償艦として頂いた経歴を持つ。第一次改装では対空火器の増設と全長全幅延長工事、第二次改装では格納庫及び機関の増設とエンクローズド・バウ、ア

ングルト・デツキ化と艦隊旗艦能力の強化で第三次改装時には中曽根軍拡と重なり原子力機関の採用と新型ミサイル兵器の搭載と幾度の改装によって現代の原子力空母に負けない性能を誇る。

伊吹型イージス巡洋艦

全長 255m

全幅 25m

基準排水量 1万7300トン

常備排水量 2万2200トン

満載排水量 2万8200トン

最大速度 50ノット

航続距離 18ノットで2万2000海里

武装 50口径25.4cm3連装主砲4基12門

65口径127mm単装速射砲12基12門

MK41VLS50セル

25連装近接防空ミサイルランチャー4基

4連装ハープーン艦対艦ミサイル発射筒4基

8連装シーパロー艦対空ミサイル発射筒4基

8連装アスロック艦対潜ミサイル発射筒2基

61cm4連装（四角形式）魚雷発射管2基

高性能30mm多砲身自動対空機関砲12基

航空機 10式対潜回転翼機2機

姉妹艦 二番艦『鞍馬』

説明

元アメリカ海軍のポートランド型重巡洋艦で真珠湾占領作戦で捕獲、改装では主砲を8インチ（20.3cm）から10インチ（25.4cm）に変更、魚雷発射管の増設などで戦時中を生き抜き終戦後にはミサイル巡洋艦としての改装を施し、中曽根軍拡の時にはイージスシステム、CIICの設置増設が行われ今もなお現役で居続

けている。

吉野型イージス巡洋艦

全長 235m

全幅 23m

基準排水量 1万2200トン

常備排水量 1万6900トン

満載排水量 1万9900トン

最大速度 50ノット

航続距離 18ノットで2万海里

武装 70口径15.5cm3連装主砲3基9門

65口径127mm単装速射砲12基12門

MK41VLS50セル

25連装近接防空ミサイルランチャー4基

4連装艦ハープーン対艦ミサイル発射筒4基

8連装艦シーパロー対空ミサイル発射筒4基

8連装艦アスロック対潜ミサイル発射筒2基

61cm4連装(四角形式)魚雷発射管2基

高性能30mm多砲身自動対空機関砲12基

航空機 10式対潜回転翼機5機

姉妹艦 二番艦『吉井』、三番艦『養老』、四番艦『狩野』、五番艦『笛吹』、六番艦『隅田』、七番艦『一ツ瀬』、八番艦『四万十』
説明

元アメリカ海軍のヴィンセンス型対空巡洋艦を賠償艦として頂いた経歴を持つ。主砲の配置は最上型軽巡洋艦時代の配置と同じで38口径12.7cm連装両用砲から70口径15.5cm3連装主砲に変更し、ぎりぎりまで高角砲と対空機関砲を搭載した事により防空巡洋艦としての機能は高まった。

中曽根軍拡においてはイージスシステム、CIC及び新型ミサイ

ル兵器を設置拡張し、艦艇後部の主砲2基を取り外し代わりにその部分を丸ごとへり用の格納庫として改装された。

撫子型ミサイル駆逐艦

全長 175 m

全幅 20 m

基準排水量 4500トン

常備排水量 6200トン

満載排水量 7800トン

最大速度 55ノット

航続距離 18ノットで1万2000海里

武装 70口径155mm単装速射砲2基2門

MK41VLS50セル

25連装近接防空ミサイルランチャー2基

4連装ハープーン艦対艦ミサイル発射筒2基

8連装シーパロー艦対空ミサイル発射筒2基

8連装アスロツク艦対潜ミサイル発射筒1基

61cm4連装(四角形式)魚雷発射管2基

高性能30mm多砲身自動対空機関砲4基

航空機 10式対潜回転翼機2機

姉妹艦 二番艦『桔梗』、三番艦『木蓮』、四番艦『鈴蘭』以下多数。

説明

日本海軍の最新鋭ミサイル駆逐艦でアメリカ海軍のアーレイ・バーク型ミサイル駆逐艦を凌駕する性能と汎用性を兼ね備えたバランス型であり、対空、対艦、対潜をこの一隻で全て可能である。

続いては航空機の紹介です。

10式制空戦闘機『雷燕』

全長 15.35m

全幅 13.2m

全高 4.5m

発動機 IHI/F2000-X500?型ターボファンエンジン

2基

最大速度 マッハ2.8

航続距離 3000km(増槽無し)

5000km(増槽あり)

乗員 1名

武装 AGU-8改30mm6砲身ガトリング機関砲2門

対空装備 20式空対空ミサイル12発

対艦装備 20式空対艦ミサイル 8発

対地装備 20式空対地ミサイル12発

説明

日本海軍の新型艦上戦闘機で5世代戦闘機に当たるステルス性と打撃力を有する戦闘機でもある。見た目はアメリカ空軍のF-22ラプターそっくりである。武装のAGU-8改は初速3900km/h、弾数は左右750発ずつの1500発となっている。

15式垂直離着陸機『隼燕』

全長 15.25m

全幅 13.2m

全高 4.6m

発動機 IHI/F2000-I X500?型ターボファンエンジン

2基

最大速度 マッハ2.5

航続距離 2700km(増槽無し)

4500km (増槽あり)

乗員 1名

武装 AGU-8改30mm6砲身ガトリング機関砲2門

対空装備 20式空対空ミサイル12発

対艦装備 20式空対艦ミサイル 8発

対地装備 20式空対地ミサイル12発

説明

日本軍とアメリカ軍が共同で開発した新型V/TOL戦闘機で最初は単発単座戦闘機として開発されていたが要求の搭載量を下回った事で急ぎよ双発単座戦闘機としてシフト変更した所、見事に性能を全て満たし高性能を獲得した5世代型戦闘機である。

15式戦闘攻撃機『翠燕』

全長 15.35m

全幅 12.6m

全高 4.5m

発動機 IHI/F2000-X500?型ターボファンエンジン

2基

最大速度 マッハ2.7

航続距離 3000km (増槽無し)

4900km (増槽あり)

乗員 1名

武装 AGU-8改30mm6砲身ガトリング機関砲2門

対空装備 20式空対空ミサイル12発

対艦装備 20式空対艦ミサイル 8発

対地装備 20式空対地ミサイル12発

説明

旧式化したF-2の後継機として開発された新型戦闘攻撃機で強力なエンジンとそれによる大搭載量は世界でトップクラス。見た目

はF-2の水平尾翼が2枚になり、エアインテークが胴体と一体化している。

15式戦闘爆撃機『剣燕』

全長 17.55m

全幅 13.8m

全高 4.5m

発動機 IHI/F2000-I X500?型ターボファンエンジン
2基

最大速度 マッハ2.5

航続距離 2700km(増槽無し)

4500km(増槽あり)

乗員 1名

武装 AGU-8改30mm6砲身ガトリング機関砲2門

対空装備 20式空空ミサイル12発

対艦装備 20式空対艦ミサイル 8発

対地装備 20式空対地ミサイル12発

説明

アメリカ軍の開発中止になったFB-22ストライクラープターのコンセプトをそっくりそのまま移転し完成させた戦闘爆撃機である。特徴としては航続距離を削ってその分搭載量とウエポンベイを強化、さらにステルス性を損なわないために苦肉の策で全長全幅を伸ばした事で全高を下げ、ステルス性を保った。

試製ATD-X『心神』

全長 16.35m

全幅 13.5m

全高 4.7m

発動機 IHI/F2000-X500?型ターボファンエンジン
最大速度 マッハ2.6
航続距離 3000km(増槽無し)
5000km(増槽あり)
乗員 1名
武装 AGU-8改30mmガトリング機関砲2門
対空装備 20式空対空ミサイル8発
対艦装備 20式空対艦ミサイル4発
対地装備 20式空対地ミサイル8発
説明

日本海軍の次世代型戦闘機で最大の特徴は世界初の換装システム
によって状況に応じた戦闘が可能とする。搭載量が少ないのは換装
パーツに依存しているためだがそれでも世界標準とほぼ同じ搭載量
であるため問題無い。

IWSP-001『インストライカー』
全長 8.25m
全幅 12.4m
全高 4.5m
対空装備 20式空対空ミサイル12発
対艦装備 20式空対艦ミサイル12発

IWSP-002『ツヴァイストライカー』
全長 8.75m
全幅 12.4m
全高 4.5m
武装 AGU-8改30mmガトリング機関砲2門
対空装備 20式空対空ミサイル16発
対艦装備 20式空対艦ミサイル16発

I W S P - 0 0 3 『ドライストライカー』

全長 8 . 4 5 m

全幅 1 2 . 2 m

全高 4 . 5 m

武装 A G U - 8 改 3 0 m m ガトリング機関砲 2 門

対空装備 2 0 式空対空ミサイル 1 0 発

対艦装備 2 0 式空対艦ミサイル 1 0 発

最後に艦魂紹介です。

越後（越後型機動航空戦艦一番艦）

身長 1 6 7 c m

体重 およそ 4 3 k g

年齢 1 7 歳位

武器 薙刀

説明

「越後」の艦魂で皆のお姉様のような立場。

備前（越後型機動航空戦艦二番艦）

身長 1 6 5 c m

体重 およそ 4 2 k g

年齢 1 6 歳位

武器 日本刀

説明

「備前」の艦魂で性格は冷静で良識派。

備中（越後型機動航空戦艦三番艦）

身長 1 6 4 c m

体重 およそ42kg
年齢 15歳位
武器 M16モデル4

説明

「備中」の艦魂で自分の事を「僕」と言つ所謂「ボクッ娘」。

備後（越後型機動航空戦艦四番艦）

身長 164cm
体重 およそ42kg
年齢 15歳位
武器 M16A4

説明

「備後」の艦魂で性格は寡黙かつ冷静。ちなみに黒縁の眼鏡をしている。

九重（九重型機動巡洋戦艦一番艦）

身長 167cm
体重 およそ42kg
年齢 17歳位
武器 サーベル

説明

「九重」の艦魂で腰まで伸びている金髪と青い瞳が特徴的で、性格は優しくて同時に豪酒である。

第七話 登場人物及び艦艇紹介（後書き）

ご意見・ご感想をよろしくお願いします。

第八話 視察のち困惑（前書き）

投稿遅れてすみませんでした。

第八話 視察のち困惑

3月3日 大日本帝国領呉海軍工廠

日本国最大の工廠である呉海軍工廠に視察と称して雑風、芹沢、白石が居た。

「長官殿。視察って何なんですか？」

「まあまあ、見てからのお楽しみってものだ」

芹沢の問いに雑風はまるでイタズラを仕掛けた子供のような表情を浮かべながら答えた。

「お楽しみってまさかあれですか？」

白石が指差した先にはとある艦艇の建造が行われていた。

艦艇の後方部しか見えないが特徴としてはまるで航空戦艦のように平べったく、艦尾が垂直になっている。

そしてもう一つのドックには……

「あれは…航空母艦ですか？」

芹沢が呟くように言った。その言葉通りに正真正銘の航空母艦が鎮座していた。

「ああそうだ。あれこそ第一独立機動艦隊に新しく配備される最新

鋭原子力空母だ」

薙風は自信満々に答えた。しかもその建造ドックは呉でも最大の大きさを誇る全長565メートル、幅75メートルと言う大きさである。

「よく予算が降りましたね」

「まあ、第一独立機動艦隊の権限がかなり大きいからな」

予算獲得の表向きは旧式化した通常空母の代用艦のための予算だが、本当は最新鋭の原子力空母を建造するため、もちろん表向きですら反対意見も出た。

特に薙風の居た世界よりも遙かに人数が多い社民党が反対意見の中枢を担っていた。理由としてはこれ以上の建造による維持費がかなり大きくなるからで、現に第一独立機動艦隊だけで維持費は中級の国家予算に匹敵するほどである。

これを聞いた海軍はほぼ脅しに近い話し合いで社民党の連中を黙らせたため、予算が通った。

「それにしても騒がしいですね？」

白石は工廠の傍に設けてあるフェンスの近くに陣取って建造反対運動を掲げている「自称」平和団体を見ながら薙風に言った。

『軍拡反対！』

『軍国主義の再来だ！』

『民主主義に反する!』

平和団体は拡声器を使って反対運動を行っていた。

「全くだ。ああいう連中が居るからこちらとしても困るんだ」

薙風はやれやれとしながら答えた。

その後は残りの建造ドックを視察して終わった。

三日後……「越後」長官室

カタカタカタカタッ!

某ラノベのキャラも驚きするほど、ものすごい速さでキーボードを打つ薙風。

「あの…長官。長官と面会したい方が……」

担当の女性士官が言う。

「面会?分かった。通せ」

「は、はい」

「失礼するぞ」

長官室に入って来たのは『ブルーコスモス』と言う団体の代表を

している平良叡智海軍少将である。（ネタ元は大帝国の平良英知海軍少将）

ちなみに『ブルーコスモス』とは日本人こそ最も優秀な人種であり、日本人こそ世界をリードする極右派の連中で構成された団体である。

「平良少将、本日はどういう用件で？」

「はっ、閣下は『ブルーコスモス』に興味はありませんか？」

やっぱりそれか…と心密かに思いながら答えた。

「……悪い。自分はそう言う事に興味や関心は無いので。それに今だって十分に日本人が活躍しているのではないか」

平良少将は数秒沈黙したが重い口を開いた。

「分かりました。ですが、これだけは覚えて下さい。あの大東亜戦争や第二次世界大戦の勝者は我々日本人である事を。では、失礼しました」

なぜか不気味な笑みを浮かべながら長官室を出た。

直後、入れ替わるかのように芹沢が長官室に入って来た。

「長官、報告書です」

そう言つと左手に持っていた報告書を雑風に手渡した。

「どうも……オイオイオイッ！これはどういう事だ！？」

報告書は読んでみた雑風はその内容に激昂し報告書を床に思いっきり叩きつけた。

「ど、どうしたのですか！？」

「…読めば分かる」

芹沢は恐る恐る床に叩きつけられた報告書を手に取り内容を読み取る。そして思わず引き攣った表情を浮かべた。

内容を要約すると機動戦艦、機動巡洋戦艦、原子力空母に必要な燃料が少しずつだが削減され、さらに航空艦隊に配備されるはずだった航空機の機数が必要数をかなり下回っていたりとこれまで正規軍よりも優遇されていた第一独立機動艦隊からすればあり得ない事だった。

「………どこのどいつだ。こんな事をするのは」

雑風は齒ぎしりしながら呟いた。

第八話 視察のち困惑（後書き）

ご意見・ご感想をよろしくお願いします。

第九話 初任務

5月15日 市ヶ谷に有る国防総省

日本国の国防を担う国防総省の入り口付近に薙風は居た。

薙風はどちらかと言えば自らの実力と類いまれな才能によって出世した人間であり、彼ら前線で戦う人間からすれば出世欲のかたまりで中央勤務を希望する目の血走った連中が住み着くこの国防総省はどうしても好きにはなれない雰囲気醸し出していたからだ。

そしてとある場所へと重い足を運んだ。

『海上幕僚長室』

コンコン

「失礼します。薙風大悟海軍大将、只今到着しました」

「入れ」

「失礼します」

海上幕僚長室に入るとそこには中条喜市ちゅうじきいち海上幕僚長が座っていた。

「早速だが君をここへ呼んだ理由だが、これを見てくれ」

そう言うと引き出しから辞令書を取り出し薙風に渡した。そして辞令書を一読した薙風は思わずもう一度読み返した。

「……これは本当ですか？」

そこに書かれてあったのは近頃活動が活発化したシーシェパードに対する艦船護衛の任務だった。

しかも未確認情報だがシーシェパードはオーストラリア政府と密接な関係を持っており、さらに旧式化した艦艇がシーシェパードに渡されていた。

「ああ、もちろんやってくれるよな？」

「もちろんです。国民の財産を守るのが軍人の役目ですから」

雑風は皮肉を込めながら答えた。

「それと君達に新しい参謀を編入させようと思う。なに、成績は優秀だが少し性格に難があつてね」

コンコン

「来たか。入れ」

「失礼しましゅ！はわわ（あわわ）噛んでしまったでしゅ！」

二人の女性（厳密には少女の方が近い）入ってきて早々噛んでしまった。

「まさか彼女達ですか？」

信じたくはないが念の為聞いた。

「ああ、そうだ。左が三沢朱里少尉、右が桜城雛里少尉である」

予想していた答えが淡々と帰って来た。

「は、初めまして三沢朱里少尉でありませう！」

「あわわ、桜城雛里勝利でありませう！」

二人は嘖みながらも自己紹介を行った。だが、薙風は全く別な事を考えていた。

（どういう事だ。これではまるで第一独立機動艦隊は厄介者の巣窟ではないか）

「一つ言っておくが、彼女達は今はああいう感じだが成績は極めて優秀で、机上演習では負け無しの才能を有する」

中条海上幕僚長はあくまで彼女達は優秀だと言い張っている。

「…分かりました」

薙風は彼女達の才能に賭けてみることにした。

一週間後、パラオ共和国

大日本帝国と同盟関係にあるパラオ共和国に第一独立機動艦隊は錨を降ろしていた。

とは言っても全艦艇を出撃させたわけでは無い。今回参加させた艦艇は燃料事情と各国の動き等を考えて暫定旗艦として大将旗を掲げてある機動巡洋戦艦「九重」に、イージス巡洋艦「伊吹」「鞍馬」「吉野」「吉井」が今回引き連れた艦艇である。

なぜ「九重」が暫定ながらも旗艦を務めるかと言うと越後型だとへたに諸外国を刺激する可能性があるため「九重」が旗艦として選ばれた。ちなみにミサイル駆逐艦は燃料事情から運用出来ずに今回はお留守番となった。

「九重」 艦橋

「と、言う事でいきなりで済まないな艦長」

「いいえ、とんでもないです。むしろ感激です」

九重艦長の柳本友里海軍大佐は言った。

ちなみに「九重」は元々戦隊旗艦として改装を施したため、艦橋とCICの広さは越後型に次いで大きくそして広い。

「それにしても過剰な戦力ですね」

柳本大佐は、たかがシーシェパード退治なら「九重」一隻で充分だと、続けた。

「はは、確かにそうだが。だが、俊敏な行動が出来ない九重だけでは心細いからな。一応、イージス巡洋艦を持ってきたと言う事だ」

雑風はあくまで確実に任務を遂行させるために念には念をと
言う事でイージス巡洋艦を持ってきた、と言う事だ。

その時、三沢参謀が艦橋に入ってきた。

「はわわ、長官殿。シーシェパードについての情報が入りました」

「やっと来たか。それで戦力は？」

「は、はい。情報によると主力は旧オーストラリア海軍ミサイル艇『アデレート』及び『キャンベラ』に加えて未確定情報ですがハーブーンやステインガーなども有しているとの事です」

ステインガーなどならまだ分かるが、いくら旧式化したとはいえミサイル艇が秘密裏に譲渡されるなどは考えられなかった。そのため艦橋内に衝撃が走った。

「まさかな。たかが反捕鯨団体がミサイル艇を有するとはな」

「はい…ですが、これでシーシェパードがオーストラリア政府との間にパイプが繋がっていると云う証拠が上がりました」

一時間後、日本の捕鯨船団と共に第一独立機動艦隊五隻はパラオの港を出港した。

第九話 初任務（後書き）

この話で出てきた用語の用語集

・国防総省

戦後、指揮の一体化を図るため陸軍省と海軍省、大本営が統合新設された役所。本部は市ヶ谷に置かれ、それぞれ陸軍部・海軍部・空軍部が存在しており、各部のトップは幕僚長となっている。

・『アデレート』『キャンベラ』

事実では存在しないミサイル艇で、モデルは事実の海上自衛隊のはやぶさ型ミサイル艇である。基準排水量550トン、速度は43ノット、武装は62口径76・2mm速射砲1門、4連装ハーブーン発射筒2基、12・7mm重機関銃4門となっている。

では、最後にご意見、ご感想をよろしくお願いします。

第十話 シーシェパード討伐（上）（前書き）

遅れてすみませんでした。色々と構想を考えてはやり直して、最終的にはこうなりました。

第十話 シーシェパード討伐（上）

同日 ミクロネシア海域 九重艦橋

浮かべる鉄の城に周囲を固められる捕鯨船団、ある意味事情が分からない人から見ればかなりおかしいであろう。それが大日本帝国海軍が越後型に続く世界に誇れる機動巡洋戦艦を筆頭とするならば尚更である。

九重以下五隻の艦艇は常に電子の目が光っている。相手が一本一億円近い値段のするハーブーンを使わない訳が無い。そのためシーパロー発射筒には迎撃のためのシースパロー（日本軍名：10式艦対空誘導弾）及びCIWSがそれぞれ装填されている。

「艦長、レーダーに異常はありません」

「報告ありがとう。そのまま警戒を怠わらずに」

「しっかし、凄いな」

「長官殿、他人事のように言わないで下さい……」

思わず三沢参謀が突っ込む。

しかし余裕になるのも当然だが、最高でもミサイル艇、最低でもトロール船が第一独立機動艦隊ナンバー2（ナンバー1はもちろん越後型）に勝てる訳が無いし、上空には10式対潜回転翼機10機が絶え間なく展開している。

「なぐに、大丈夫だつて。ロクな戦術も持たない連中がハーブーンやミサイル艇を持った所で宝の持ち腐れだつて」

薙風らしくない余裕を見せている発言に一同は同情をこめて頷いた。

一時間後、何事も無く一行は該当海域に到着した。

「…何も起こりませんね」

「ああ、不気味なくらいにな…一応、戦闘準備を」

「了解しました。各員、戦闘用意！」

艦内放送で戦闘用意の放送が流れると水兵士官達はそくそくと戦闘準備に入った。

同時に輪形陣も狭まり、よりがちりと捕鯨船団の周りを固めた。

さらに30分航行するとレーダー員から悲鳴のような報告が入った。

「方向0時！距離200キロ！飛行する物体を四つ確認！速度からしてハーブーンです！」

「チッ！シースパロー撃てーッ！」

「了解！シースパロー発射ッ！」

ズシューーーーーン！ズシューーーーーン！ズシューーーーーン！ズシューーーーーン！

九重の一番発射筒から四発のシースパローが轟音と噴煙と共に放たれた。

「目標命中まで3…2…1…命中ッ！」

シーシェパードのミサイル艇から放たれた（と思われる）ハーブーンを余裕を持って撃破した。直後、別のオペレーターが報告してきた。

「艦長。レーダーに反応あり。距離120キロ、艦種はミサイル艇二隻、トロール船三隻です」

120キロならマツハ2・5で飛翔するハーブーン（日本軍名：10式艦対艦誘導弾）でなら5分前からずいぶん到着する。しかし今回は捕鯨船団の護衛任務であり、海賊討伐では無いのでトマホーク（日本軍名：10式巡航ミサイル）やハーブーン、アスロック（日本軍名：10式艦対潜誘導弾）は一発も搭載しておらず、さらにシースパローも各発射筒に装填された数だけ有しているだけである。それでも過剰であるが……。

「長官。いかがなさいますか？」

柳本艦長が指示を仰いできた。雑風は少し考え言った。

「捕鯨船団には伊吹、鞍馬、吉野、吉井を護衛させ、九重は先行し

奴らを牽制する」

この命令は信号で四隻に連絡され、九重は速度を上げ先行した。

単艦先行して一時間、シーシェパードの船団を視認できるほどに九重は接近すると、船団と垂直線上的になるように進路を取り速度を下げ、左舷に取り付けられた速射砲、CIWSがミサイル艇を中心に狙いを定めた。

シーシェパードの艦艇はいずれも船体が黒塗りされ、不気味な雰囲気を出している。

『こちらは大日本帝国海軍機動巡洋戦艦『九重』。我々の任務は捕鯨船団の護衛である。貴船団は不当に捕鯨船団に接近している。これ以上近付くなら発砲する。もう一度勧告する。不当に接近するならば貴船団を不審船団と見なし発砲する』

拡声器を使って、接近するシーシェパードに対し警告する。

続いて英語、フランス語、ドイツ語などを使って同じ趣旨を伝え、さらにモールス信号や発光信号で警告する。

するとシーシェパードの船団は速度を落とし、並走するかのよう
に航行する。その上空には10機の10式対潜回転翼機が張り付い
た。

「あわわ、あっさりと従いましたね」

「油断するなよ。何しでかすか分からない連中だからな」

そう言つと雑風は双眼鏡で五隻の船団を監視した。あまりの静けさ、不気味と言える静けさに緊張が走る。

そして船団に動きがあつた。

「艦長！へりより連絡です！」

オペレーターが叫んだ。そしてすかさずスピーカーからへりからの通信が、モニターにはへりからの映像が流れた。

『こちら一号機！や、奴らはステインガーマサイルを……！わ、わああー……！』

一号機のパイロットからの通信と映像が途切れ途切れ砂嵐で火を噴きながら海面に激突した映像を最後に途切れた。

『こ、こちら二号機！奴らはマシンガンで武装し発砲してきた！これより応戦する！』

ここまでくれば最早間違いや疑いも無い。故に雑風は即断で指示した。

「これよりシーシェパードを危険武装集団と認定！指示通りに迎撃せよ……！」

事前に、もし攻撃やそれに準する行為を受けた場合は専守防衛として反撃しても良い、と通告されている。

そして静寂だった海はたちまち互いの銃声音が木霊する戦場と化

した。

第十話 シーシェパード討伐（上）（後書き）

ご意見・ご感想をよろしくお願いします。

第十一話 シーシェパード討伐(下) (前書き)

かなりの更新遅れ申し訳ございませんでした。作者は課題テストの勉強及び冬休みの宿題に時間を取られてしまい、ここまで更新が遅れてしまいました。

第十一話 シーシェパード討伐（下）

唐突に勃発した銃撃戦だったが、やり始まるから無謀で自殺行為に等しかった。

トロール船やミサイル艇に搭載されたM2重機関銃では防弾装甲で固められたCIWSやミサイル発射筒を破壊する事は出来ず、逆に30mm多砲身自動対空機関砲で船体は忽ち穴だらけになり、人に掠つただけでその部分が干切れてしまう。

大体、トロール船やミサイル艇が第一独立機動艦隊ナンバー2に喧嘩を売ったのが大間違いだ。

九重 艦橋

銃撃戦の様子を双眼鏡で覗く薙風。覗いた先はまるで地獄だった。

漁船はCIWSによって多数の破孔が穿たれ、乗組員はいずれも五体不満足の状態であるからまさに一方的な虐殺に近い状態になっている。

ただ一つ不可解に思った。なぜ速射砲を撃たない、と。確かに速射砲はこの銃撃戦が勃発してミサイル艇から一発も砲撃していない。

砲弾が一発も装填されていないと言う事は考えられない。何か裏がある、と考えていたその時だった。

突然、漁船のクルーの一人が何かを甲板めがけて投げ、カランと

音を立てながら甲板に転がるとプシューッ、と煙が立ち籠った。

「煙幕だと！奴らは逃げるつもりか！？」

煙幕は九重と船団をすっぽり覆い尽くしていた。その間、勝ち目のない銃撃戦からか、この隙に逃げられる可能性がある。

数秒すると風向きからか煙が徐々に晴れていったが、何と隣に居たはずの船団が一隻もいなくなっていた。

「や、奴らが居ないぞ！」

「何ですと！見張り員、周囲警戒を」

見張り員や手の空いている人達は双眼鏡片手に周囲を探した。

「ちょ、長官！方向三時、ミサイル艇が最大速度で捕鯨船団に向かうつもりです！」

見張り員の一人が叫ぶ。

「方向八時、トロール船三隻確認！」

損害の多い漁船三隻がミサイル艇とは全く逆方向へ真っ先に逃げるかのように進んでいた。

漁船は無視して捕鯨船団へと向かっていくミサイル艇を見据えた。ミサイル艇の速度は時速43ノットであり、時速45ノットの九重なら何とか追い付く事が出来る。

「砲術長、迎撃は出来るか！」

「無理です！速射砲も進路上の敵には射角外で、ミサイルも対空ミサイルのみです！」

速射砲はミサイル発射筒などの配置の問題で射角が制限され、ミサイルも専ら対空用しかない状態である。

「なら主砲はどうなんだ！」

「撃てない事は無いのですが…タイミングを間違えると逃げられる可能性があります！」

「万事休すか…待てよ。艦対空ミサイル発射準備！」

雑風のこの発言に思わず艦橋に居た全員の視線が雑風に集中した。

「ちょ、ちょっと待って下さい！確かに水上艦艇への攻撃も可能ですが、効果ははっきり言って保障できません！」

「構うものか！相手は1000トンにも満たない小型艦艇だ。それに命中するか分からない主砲よりは確実だからな」

「…分かりました。シースパロースタンバイ！」

砲術長の命令で九重の一番艦対空ミサイル発射筒がミサイル艇の方向に向けられ、前方艦橋後方に備え付けられたイルミネーターがミサイル艇二隻をそれぞれ捉えた。

「目標ロックオン完了。いつでも行けます」

「では…発射ッ！」

ズシューーーン！ズシューーーン！ズシューーーン！ズシューー
ーーン！

一番艦対空ミサイル発射筒から四発のシースパローが轟音を轟かせながら海面すれすれを飛翔した。

ちなみに日本軍仕様のシースパローは弾頭50キログラムでラムジェットエンジン併用の超高速型であり、ラムジェットエンジンが起動すると、何とマツハ5にまで向上する。

そんな事は露知らず、ただひたすら海上を進んでいたミサイル艇二隻は突然接近する飛行物体に混乱状態になっていた。

「お、おい！見てみる！？」

「な、何だあれは！？」

マツハ5で接近するシースパローに成す術も無くミサイル艇の後方に二発ずつ命中した。弾頭50キログラムとはいえ、マツハ5と言つ速度に加えてミサイルが命中した場所が命取りとなった。

ミサイル艇の構造として艦艇の後方にガスタービン機関と燃料が配置されており、そこにシースパロー二発が直撃し弾頭とミサイル自体に備え付けられていた燃料が同時に爆発を引き起こさせると、ガスタービンの燃料である軽油が誘爆を引き起こし、その爆発力と爆風は次々と居住区を破壊させ、何と艦首付近に備え付けられていた速射砲の砲弾に引火、次の瞬間この世とは思えないほどの爆発音

を鳴り響きならせながらミサイル艇は真つ二つに折れ、沈んでいった。

その様子を艦橋のモニターから見ていた艦橋の全員は数秒だがあまりの出来事に誰一人として言葉を発しなかったが、オペレーターが口を開いた。

「……ミサイル艇の反応消滅しました」

「そうか……絶望的だが生存者を確認させてくれ」

「了解しました。対潜ヘリを回します」

直後、見張りから連絡が入って来た。

「長官。捕鯨船団及び伊吹、鞍馬、吉野、吉井を確認しました」

「分かった。生存者は彼らに任せ、我々はトロール船を追いかける。全員もう少し頑張ってくれ」

「了解しましたッ!!」

第十一話 シーシェパード討伐(下) (後書き)

ご意見・ご感想をよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2342z/>

新生大日本帝国大戦記

2012年1月12日09時45分発行